

5 文法2 敬語の用法

組	
番号	
氏名	

① 次の表の（ ）に、尊敬語、謙讓語、丁寧語、接頭語のいずれかを書き入れなさい。

敬語の種類	敬語のはたらき
()	目上の相手の動作などへの敬意を示す言葉。
()	目上の相手に対する自分(や家族)の行動をへりくだることで、相手を敬う言葉。自分(や家族)がへりくだることで、その結果、相手に敬意を示す。 「お」「ご」「御」などの()や、文末を「です」「ます」「ございます」などの丁寧な表現にすることで、相手に敬意を示す言葉。
()	

② 次の「動詞にかかわる尊敬語・謙讓語についての表」で、()に、当てはまる言葉を書きなさい。(斜線の欄は当てはまる言葉はありません。)

語例	尊敬語	謙讓語
行く	いらっしゃる	()
来る		伺う
いる	()	おる
言う	()	申す
話す	ご覧になる	申し上げる
見る	あがる	拝見する
聞く		承る
食べる	()	頂戴する
飲む		頂戴する
もらう	()	
くれる		
やる	()	
与える		
する	()	いたす

3 次のそれぞれの文章の () にあてはまる言葉を入れなさい。

「読む」の尊敬語は、「お読みになる」で、謙讓語では「お読みする」である。このように接頭語を使う敬語の表現では、「お……になる」は尊敬語の表現で、「お……する」ならば、謙讓語の表現である。この場合は「お」が接頭語である。

これを「聞く」にあてはめると「()」が尊敬語となり、「()」が謙讓語となる。

また、「()……になる」「や」「()……する」のようなものもある。例えば、「席に着く」の尊敬語は「()」である。「案内する」の謙讓語は、「()」である。

一方、名詞に接頭語「お」がつくことで、丁寧語の敬語表現になる。例えば、「お米」、「おふる」、「お水」、「おみそ汁」などである。

また、「母」に「お」や、接尾語の「さん」をつけると「お母さん」となるが、これも敬語表現なので、使う場合を気を付けたい。

4 次のそれぞれの文の中で、傍線部の敬語の使用上に誤りのあるものに、「X」を付けなさい。

① 「お母さんが、先生にお電話をなさるそうです。」
「母が、先生にお電話を差し上げるそうです。」

② 「教室に先生はおりますか。」
「教室に先生はいらっしゃいますか。」

③ 「先生が本を読んでいるらっしゃる。」
「先生が本をお読みになられていらっしゃる。」

5 次の各文の傍線部の敬語の種類として最も適切なものをあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① お茶を召し上げられ。 []
② すぐにうかがいます。 []
③ あすは晴れるでしょう。 []

ア 尊敬語 イ 謙讓語 ウ 丁寧語